



タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3505		
科目名	地域防災論		
担当教員	木下 誠也		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	水 4		
講義室	オンライン	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・危機管理		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1－E〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4－I〔理解力・分析力〕 文章表現・数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、問題の解決につなげることができる。 ■CRコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンレブリック（CR）との関連 C1 倫理的思考・社会認識（15%） E1 学識と専門技能（50%） G1 状況把握（15%） I3 情報分析（20%）		
教員の実務経験	2009年までの31年余にわたり国土交通省をはじめ内閣府や地方公共団体その他の勤務を通じて防災のためのインフラ整備や災害対応の実務に関わりました。実務上の知見と経験を生かして、地域防災に関する講義を行います。（第1回、第3回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	政府や自治体による災害対策が公助であるとすれば、地域住民が個人で行う災害対策は自助であり、災害対策のための地域や近所の住民同士が助け合う防災は、共助、互助と呼ぶことができます。現代において、災害対策におけるこの共助や互助のあり方が注目されています。災害対策のために、地域の自治体や自主防災組織、企業や学校、地域の自治会などがどのような対策を立て、活動しているか、地域コミュニティの活動や地域防災ネットワークのあり方を中心に考察します。避難訓練や吹き出し訓練、住民の名簿作成など、具体的な地域を事例としながら学びながら、地域防災に関する理解を深めます。授業形態は講義形式により行います。なお、授業を補完・代替するためオンライン授業（オンデマンド型）を取り入れます。 ■キーワード 地域防災・自助共助公助・災害対策		
授業の趣旨	■副題 地域の防災力の重要性を認識して、警戒・避難システムや地方自治体、自主防災組織、企業などの防災活動の現状と課題を学び、自助・共助・公助のあり方を論じられるようになります。 ■授業の目的 具体的な災害事例や地域における警戒・避難システムや地方自治体、自主防災組織、企業などの防災活動を学び、自助・共助・公助の観点から地域防災のあり方について、自ら説明できるだけの能力を身につけることを目的とします。 ■授業のポイント 災害が発生した場合には、地域住民が防災関係機関と一体となって、消防、水防、被害者救		

	助、避難・誘導を行うことが大切であり、これが被害の拡大を防ぎ、円滑に防災活動を進めるうえで重要となる。このため、警戒・避難や自主防災組織の結成、日頃からの防災訓練の実施などの地域防災の取り組みが注目を集めている。 ここでは、地域の防災力を高めることの重要性を認識したうえで、具体的な災害事例や地域における防災活動を学習することなどを通じて、災害対策における自助・共助・公助のあり方を考察し、地域防災のあり方を検討するために、警戒・避難システムや地方自治体、自主防災組織、企業などの防災活動の現状と課題について総合的に考察することになります。								
総合到達目標	■災害時に被害を軽減するためには、いざというときに地域において適切な防災活動がなされることが極めて重要である。警戒・避難システムや地方自治体、自主防災組織、企業などの防災活動といった地域防災に関する基礎的な知識を学識として習得し、現状と課題について状況把握することができ、地域防災のあり方について、自分なりの視点から論ずることができるようになる。 ・過去の災害に学び、地域防災力の現状と課題を説明することができる。（第1～第4回、第15回） ・建築物の被災や都市災害に関する地域防災の現状と課題を説明することができる。（第5回、第10回、第15回） ・地震・津波・火山災害に関する地域防災の現状と課題を説明することができる。（第1回、第3～4回、第6回、第9回、第15回） ・水害・土砂災害に関する地域防災の現状と課題を説明することができる。（第1回、第7～8回、第15回） ・自主防災や救急救命に関する地域防災現状と課題を説明することができる。（第1回、第11～15回）								
成績評価方法	■授業参加度（60%）：適用ルーブリック C1、G1、I3 （評価の観点）災害の危機管理に必要な基礎知識を習得して、課題を理解し、分析力を身につけるための授業への参加度を評価します。 （フィードバックの方法）授業の中でフィードバックします。 ■レポート 1回（40%）：適用ルーブリック E1 （評価の観点）災害の危機管理に関する基礎的な知識を習得し、地域防災のあり方について学識と分析力を評価します。 （フィードバックの方法）後日評価の観点を示します。								
履修条件	特にありません。								
履修上の注意点	特にありません。								
授業内容	<table><tr><th>回</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンスと地域防災の序論 ②授業概要 授業の全体構成、授業の目的と進め方、到達目標、成績の評価方法について説明を行ったうえで、地域防災力向上の重要性を理解するために授業の予備知識としての地域防災論の概要を実務経験を踏まえて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、レポートの実施予定を説明する。（C1、E1、G1、I3） ③予習（120分） シラバスの内容を踏まえ、教科書を読んで、授業の全体の流れを理解しておく。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 </td></tr><tr><td>2</td><td> ①授業テーマ わが国の災害に備える地域力 ②授業概要 過去の災害の発生状況と被害の状況について知識を得て、わが国の災害の特性と災害に備える地域力の現状と課題を理解し、受講生がそれについて説明できるようにする。（C1、E1、G1、I3） ③予習（120分） わが国の自然災害の地域力の現状について、教科書や既往文献により予備知識を得ておく。（C1、E1、G1、I3） ④復習（120分） 講義ノートを確認して、わが国の災害の特性と災害に備える地域力の現状と課題について、自分なりの説明をまとめる。 </td></tr><tr><td>3</td><td> ①授業テーマ 東日本大震災における地域防災 ②授業概要 東日本大震災の際には、各地で地域住民による助け合いが見られたが、そういった共助の取り組みは、日頃から行われている、防災をはじめとする様々な取り組みの積み重ねが現れたものである。実務経験に基づく講義により東日本大震災において地域における防災力を発揮した事例を学ぶことにより、地域防災の課題を理解し、受講生がそれについて説明できるようにする。（C1、E1、G1、I3） ③予習（120分） 東日本大震災における各地の自助・共助の取り組みについて、教科書や既往文献により予備知識を得ておく。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、東日本大震災の事例を踏まえた地域防災の課題について、自分なりの説明をまとめる。 </td></tr></table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンスと地域防災の序論 ②授業概要 授業の全体構成、授業の目的と進め方、到達目標、成績の評価方法について説明を行ったうえで、地域防災力向上の重要性を理解するために授業の予備知識としての地域防災論の概要を実務経験を踏まえて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、レポートの実施予定を説明する。（C1、E1、G1、I3） ③予習（120分） シラバスの内容を踏まえ、教科書を読んで、授業の全体の流れを理解しておく。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	2	①授業テーマ わが国の災害に備える地域力 ②授業概要 過去の災害の発生状況と被害の状況について知識を得て、わが国の災害の特性と災害に備える地域力の現状と課題を理解し、受講生がそれについて説明できるようにする。（C1、E1、G1、I3） ③予習（120分） わが国の自然災害の地域力の現状について、教科書や既往文献により予備知識を得ておく。（C1、E1、G1、I3） ④復習（120分） 講義ノートを確認して、わが国の災害の特性と災害に備える地域力の現状と課題について、自分なりの説明をまとめる。	3	①授業テーマ 東日本大震災における地域防災 ②授業概要 東日本大震災の際には、各地で地域住民による助け合いが見られたが、そういった共助の取り組みは、日頃から行われている、防災をはじめとする様々な取り組みの積み重ねが現れたものである。実務経験に基づく講義により東日本大震災において地域における防災力を発揮した事例を学ぶことにより、地域防災の課題を理解し、受講生がそれについて説明できるようにする。（C1、E1、G1、I3） ③予習（120分） 東日本大震災における各地の自助・共助の取り組みについて、教科書や既往文献により予備知識を得ておく。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、東日本大震災の事例を踏まえた地域防災の課題について、自分なりの説明をまとめる。
回	内容								
1	①授業テーマ ガイダンスと地域防災の序論 ②授業概要 授業の全体構成、授業の目的と進め方、到達目標、成績の評価方法について説明を行ったうえで、地域防災力向上の重要性を理解するために授業の予備知識としての地域防災論の概要を実務経験を踏まえて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、レポートの実施予定を説明する。（C1、E1、G1、I3） ③予習（120分） シラバスの内容を踏まえ、教科書を読んで、授業の全体の流れを理解しておく。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。								
2	①授業テーマ わが国の災害に備える地域力 ②授業概要 過去の災害の発生状況と被害の状況について知識を得て、わが国の災害の特性と災害に備える地域力の現状と課題を理解し、受講生がそれについて説明できるようにする。（C1、E1、G1、I3） ③予習（120分） わが国の自然災害の地域力の現状について、教科書や既往文献により予備知識を得ておく。（C1、E1、G1、I3） ④復習（120分） 講義ノートを確認して、わが国の災害の特性と災害に備える地域力の現状と課題について、自分なりの説明をまとめる。								
3	①授業テーマ 東日本大震災における地域防災 ②授業概要 東日本大震災の際には、各地で地域住民による助け合いが見られたが、そういった共助の取り組みは、日頃から行われている、防災をはじめとする様々な取り組みの積み重ねが現れたものである。実務経験に基づく講義により東日本大震災において地域における防災力を発揮した事例を学ぶことにより、地域防災の課題を理解し、受講生がそれについて説明できるようにする。（C1、E1、G1、I3） ③予習（120分） 東日本大震災における各地の自助・共助の取り組みについて、教科書や既往文献により予備知識を得ておく。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、東日本大震災の事例を踏まえた地域防災の課題について、自分なりの説明をまとめる。								

4	①授業テーマ 阪神淡路大震災における地域防災 ②授業概要 阪神淡路大震災では、犠牲者の8割を家屋の倒壊や家具の転倒による圧死・窒息死が占めた。阪神淡路大震災において地域における防災力を発揮した事例を学ぶことにより、地域防災の課題を理解し、受講生がそれについて説明できるようにする。(C1、E1、G1、I3) ③予習(120分) 阪神淡路大震災における各地の自助・共助の取り組みについて、教科書や既往文献により予備知識を得ておく。 ④復習(120分) 講義ノートを確認して、阪神淡路大震災の事例を踏まえた地域防災の課題について、自分なりの説明をまとめる。
5	①授業テーマ 耐震診断と補強 ②授業概要 地震によって被る建物や人命などの被害を最小限に抑えるために建築物の耐震性の重要性を理解し、破壊や倒壊の可能性の有無を把握するための耐震診断や耐震性向上のための補強の制度の概要と現状を学んで、今後の課題を理解し、受講生がそれについて説明できるようにする。(C1、E1、G1、I3) ③予習(120分) 耐震診断や耐震性向上のための補強について、教科書や既往文献により予備知識を得ておく。 ④復習(120分) 講義ノートを確認して、耐震診断や耐震性向上のための補強の現状と課題について、自分なりの説明をまとめる。
6	①授業テーマ 地震災害・津波災害と緊急地震速報 ②授業概要 地震災害・津波災害と緊急地震速報の対応について、過去の事例を学ぶことによって今後の課題を理解し、受講生がそれについて説明できるようにする。また、リアクションペーパーに対するフィードバックを行う。(C1、E1、G1、I3) ③予習(120分) 地震災害・津波災害と緊急地震速報の対応について、教科書や既往文献により予備知識を得ておく。 ④復習(120分) 講義ノートを確認して、地震災害・津波災害と緊急地震速報の対応について、自分なりの説明をまとめる。
7	①授業テーマ 台風・高潮と予警報 ②授業概要 台風・高潮と予警報の対応について、過去の事例を学ぶことによって今後の課題を理解し、受講生がそれについて説明できるようにする。(C1、E1、G1、I3) ③予習(120分) 台風・高潮と予警報の対応について、教科書や既往文献により予備知識を得ておく。 ④復習(120分) 講義ノートを確認して、台風・高潮と予警報の対応について、自分なりの説明をまとめる。
8	①授業テーマ 土砂災害と土砂災害危険情報 ②授業概要 土砂災害と土砂災害危険情報の対応について、過去の事例を学ぶことによって今後の課題を理解し、受講生がそれについて説明できるようにする。(C1、E1、G1、I3) ③予習(120分) 土砂災害と土砂災害危険情報の対応について、教科書や既往文献により予備知識を得ておく。 ④復習(120分) 講義ノートを確認して、土砂災害と土砂災害危険情報の対応について、自分なりの説明をまとめる。
9	①授業テーマ 火山災害とハザードマップ ②授業概要 火山災害とハザードマップの対応について、過去の事例を学ぶことによって今後の課題を理解し、受講生がそれについて説明できるようにする。(C1、E1、G1、I3) ③予習(120分) 火山災害とハザードマップの対応について、教科書や既往文献により予備知識を得ておく。 ④復習(120分) 講義ノートを確認して、火山災害とハザードマップの対応について、自分なりの説明をまとめる。
10	①授業テーマ 都市災害 ②授業概要 都市における災害の発生状況を学び、都市災害の特徴を理解する。そのうえで、都市における防災のための社会基盤整備や防災体制の取り組みについて好事例を修正・分析し、都市における防災の課題を理解し、受講生がそれについて説明できるようにする。また、レポートの課題を示します。(C1、E1、G1、I3) ③予習(120分) 都市における防災のための社会基盤整備や防災体制の取り組みについて、教科書や既往文献により予備知識を得ておく。 ④復習(120分) 講義ノートを確認して、都市における防災の課題をについて、自分なりの説明をまとめる。
11	①授業テーマ 地域の自主防災組織 ②授業概要 災害が発生時にただちに力を発揮するのは、被災現場にいる地域の人々である。地域における自助・共助と自主防災組織の取り組み事例を学ぶことを通じて地域

	防災の課題を理解し、受講生がそれについて説明できるようにする。また、リアクションペーパーに対するフィードバックを行う。(C1、E1、G1、I3) ③予習(120分) 自助・共助と自主防災組織について、教科書や既往文献により予備知識を得ておく。 ④復習(120分) 講義ノートを確認して、地域における自助・共助と自主防災組織の取り組みなどの地域防災の課題について、自分なりの説明をまとめる。
12	①授業テーマ 救急救命活動 ②授業概要 危機的な状況下におかれている者の命を救う救急救命活動が災害時には大変有効である。災害時の救急救命活動の現状をこれまでの事例を踏まえて学び、地域防災の課題を理解し、受講生がそれについて説明できるようにする。(C1、E1、G1、I3) ③予習(120分) 災害時の救急救命活動について、教科書や既往文献により予備知識を得ておく。 ④復習(120分) 講義ノートを確認して、災害時の救急救命活動に関する地域防災の課題について、自分なりの説明をまとめる。
13	①授業テーマ 防災士とボランティアについて ②授業概要 災害の発生直後から初期段階における活動(公助の動き出す前の活動)については、自らの力と、近隣住民同士の協働で切り開いていかなければならない。この自助・共助の活動を災害発生時に実践する人材として防災士や防災ボランティアの役割が重要である。防災士と防災ボランティアについて、制度と現在の活動状況について学び、地域防災の課題を理解し、受講生がそれについて説明できるようにする。(C1、E1、G1、I3) ③予習(120分) 防災士と防災ボランティアについて、教科書や既往文献により予備知識を得ておく。 ④復習(120分) 講義ノートを確認して、防災士と防災ボランティアに関する地域防災の課題について、自分なりの説明をまとめる。
14	①授業テーマ 災害図上訓練など防災訓練 ②授業概要 災害時における被害を最小限に食い止めるためには、防災活動を円滑に実施する必要がある。そのためには、各種の防災訓練を実施し、災害対応の習熟を図ることが重要であり、先進的取組として災害図上訓練を取り入れている事例がある。災害図上訓練とは、地域で大きな災害が発生した場合を想定し、地図への書き込みを通して、参加者全員が主人公となり、積極的に災害の対応策を考えることができる防災訓練である。このような防災訓練の先進的事例などを含めた現在の実情を学び、受講生が自分なりに説明できるようにする。(C1、E1、G1、I3) ③予習(120分) 防災訓練について、教科書や既往文献により予備知識を得ておく。 ④復習(120分) 講義ノートを確認して、防災訓練に関する地域防災の課題について、自分なりの説明をまとめる。
15	①授業テーマ 地域防災論のまとめ ②授業概要 14回の授業での学びを総括し、地域における防災活動の事例をレビューしたうえで、災害対策における自助・共助・公助のあり方を考察し、地域防災のあり方を検討することにより、地域防災に関するまとめの考察を行う。(C1、E1、G1、I3) ③予習(120分) 教科書と講義ノート全体を読み直し、各テーマについて自分の考えをもとに論じられるように準備する。 ④復習(120分) 全体を振り返り、自分の考えを再検証するとともに、今後の学習方針について考える。
関連科目	災害と法RMGT3401、災害対策論RMGT3501、自然災害論RMGT3503、救援活動論RMGT3508、ライフライン防護RMGT3531
教科書	■木下誠也『地域防災とライフライン防護』コロナ社、2018、ISBN 978-4-339-05261-9
参考書・参考URL	■木下誠也『自然災害の発生と法制度』(コロナ社・2018)、大石久和・藤井聡『国土学』(北樹出版・2016)、石井一郎他『防災工学(第2版)』(森北出版)、河田恵昭『日本水没』(朝日新書・2016)、土屋信行『首都水没』(文春新書・2014)
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 掲示板にてお知らせします。メールにて事前にアポイントメントをとってください。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント70%、パブリックセキュリティ10%、情報セキュリティ10%、グローバルセキュリティ10% ■危機管理学と法学のバランス 危機管理学80%、法学20%



Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.